

国語

第3問 問4

複数のテキストを踏まえた設問

出題の特徴

第3問は2つの文章が出題され、【文章Ⅰ】の内容は【文章Ⅱ】の内容を踏まえて書かれたものでした。問4では、2つの文章を読んだ後で生徒と先生の話合いが行われ、会話中の空欄に入る内容として適当なものを選ぶ出題でした。それぞれの文章の内容を的確におさえて、解答することが求められました。

指導のご提案

複数のテキストを用いた出題は今後も続くことが見込まれます。出題内容としてはそれぞれの文章の内容把握や共通点の把握など、さまざまな出題が考えられますが、それぞれの文章の内容を正確にとらえるために、主語の把握や文章を解釈する文法の力をつけておくことが大切です。

2022年度大学入学共通テスト「国語」

受験者数: 460,967人
 平均点: 110.26点
 標準偏差: 31.94

教材のご紹介

第3問 次の【文章Ⅰ】は、鎌倉時代の歴史を描いた『源氏物語』の「院」の節、「文章Ⅱ」は、後深草院に親しく仕える二条という女性が書いた「二条」の節の「院」の節である。どちらの文章も、後深草院(本文では「院」)が異母妹である前斎宮(本文では「斎宮」)に恋慕する場面を描いたものであり、【文章Ⅰ】の内容は、「文章Ⅱ」の6行目以降を踏まえて書かれている。【文章Ⅰ】と【文章Ⅱ】を読んで、後の問い(問1～4)に答えよ。なお、設問の都合で【文章Ⅱ】の本文の上に行数を付している。(配点 50)

【文章Ⅰ】
 院も我が御方に
 わりなき、(注)は
 ひたら給へば、
 なむは、あかす口
 なにがしの大納言
 「なれなれしき
 とBせちにまめた
 えかに消えまどひ
 【文章Ⅱ】
 斎宮は二十に余
 も、よそ目はいか
 内は、いづしがい
 御物語ありて、

問4 次の示すのは、授業で【文章Ⅰ】【文章Ⅱ】を読んだ後の、話し合いの様子である。これを読み、後の(1)～(4)の問いに答えよ。

生徒A 確かに、院の様子なんかそうかも、【文章Ⅱ】では「」
 生徒B ほかに、二条のコメントが多いところも特徴的だね。【文章Ⅱ】の「」
 生徒C で見たことが書かれているという感じがするよ。

教師 いま二つの文章を読みました。【文章Ⅰ】の内容は、「文章Ⅱ」の6行目以降に該当していました。【文章Ⅰ】は【文章Ⅱ】を資料にして書かれています。かなり違う点もあって、それぞれに特徴がありますね。どのような違いがあるか、みんなで考えてみましょう。

(1) 空欄 X に入る最も適当なものを、次の○①～④のうちから二つ選べ。解答番号は 25。

① いてもたってもいられない院の様子が、発言中で同じ言葉を繰り返しているあたりからじかに伝わってくる
 ② 斎宮に対する恋心と慕情が院の中で次第に深まっていく様子が、二条との会話からありありと伝わってくる
 ③ 斎宮に執着する院の内心が、斎宮の気持ちを繰り返し思いやっているところからはっきりと伝わってくる
 ④ 斎宮から期待通りの返事をもらった院の心躍る様子が、院の具体的な服装描写から生き生きと伝わってくる

(2) 空欄 Y に入る最も適当なものを、次の○①～④のうちから二つ選べ。解答番号は 26。

① 3行目「いづしがいかなる御物思ひの種に」は、院の性格を知り尽くしている二条が、斎宮の容姿を見た院に、早くも好色の虫が起ころ始めたであろうことを感づいている
 ② 8行目「思ひつゝもとよと、まかしくてあれば」は、好色な院があの手で斎宮を口説くこととしているのに、世間離れた斎宮には全く通じていないことを面白がっている
 ③ 18行目「寝給ひぬるも心やましければ」は、院が強引な行動に出かねないことに對する注意を促すため、床についていた斎宮を起してしまったことを感づいている
 ④ 20行目「責めさせ給ふもむつかしければ」は、後深草の手引きをするに慣れているはずの二条さえ、斎宮を院のもとに導く手立てが見つからずに困惑している

教材のご紹介… 「2023共通テスト対策【実力完成】直前演習 国語」

複数のテキストを踏まえた設問

第5回 第3問

解答解説

問5 ▼和歌の理解(別テキストによる観点の追加) [26・27]
 中の君が詠んだ「天の原」の和歌をより深く理解する。「文章Ⅰ」に影響を与えたとする「竹取物語」の一節を紹介する。
 かの都の人は、いとけうらに、老いをせずなむ。思なり。さる所へまからむずるも、いみじくはべらず

月の世界に帰るかぐや姫の翁や媼に対する惜別の情を示したこの一節は、「月の国の人は、まことに光り輝くように美しく、老いることもないのです。思い悩むこともありません。そのような所でも(翁や媼を地上に残して)参るのは、決してうれいことではございません。」という内容である。したがって、苦悩のない不老不死の国という「竹取物語」における月の世界への理解と、教師の「文章Ⅰ」の出典である「夜の寝覚」は「竹取物語」の影響を受けている」という発言を前提にして、生徒たちの発言である各選択肢を吟味しよう。

①「文章Ⅱ」には父大臣の考えとして中の君を「なよ竹のかぐや姫」になぞらえている表現がある一方で、「文章Ⅰ」には「かぐや姫」に直接関わる描写がない。したがって、「竹取物語」との関係において「文章Ⅰ」を「暗示的」とし、「文章Ⅱ」を「明示的」とする意見は適当。

②原作である「文章Ⅰ」には「竹取物語」の影響があることや「文章Ⅱ」が「文章Ⅰ」の改作であることは教師の発言やリード文から読み取れる。したがって、「文章Ⅱ」に「かぐや姫」が出てくるのも当然だという意見や、「文章Ⅰ」でも「中の君」に「かぐや姫」の印象を重ねられるという意見は適当。

③「地上の現実世界は、中の君にとって忌み嫌うべき対象」
 ×中の君も月の世界を「かぐや姫」と同じように「若そいたと推測するのは可能であるが、中の君が地上を嫌悪している様子は、「文章Ⅰ」「文章Ⅱ」の内容から読み取れない。よって、この意見は適当ではなく、正解。

ポイントをコンパクトに解説。復習に手間を取らせません。

2023版は6月発刊予定で、4月から見本請求の受け付けを開始します。



定価980円(税込み)

第3問 次の「文章Ⅰ」は、平安時代後期に成立した物語「夜の寝覚」の冒頭部分の1節で、中の君が十三歳の八月十五夜、被女の前で天人が降臨して鐘の秘曲を伝授し、翌年の同じ夜に残りの五曲を伝授しようと言った後に続く場面である。「文章Ⅱ」は、鎌倉時代後期に成立した「夜寝覚物語」の1節で、「文章Ⅰ」と同じ場面が描かれている。なお、「夜寝覚物語」は「夜の寝覚」を改作したものとされている。これらを読んで、後の問い(問1～5)に答えよ。(配点 50)

【文章Ⅰ】
 人知れず、
 り暮らせば、
 明くなりぬ。
 の琴を弾き、
 弾き給ふ事、
 のを、のあ、
 も過ぎ、
 「あはれ、あは、
 さらにとど

【文章Ⅱ】
 先生、二重障子の和歌は、百人一首も出てくる。閉止通明の「天つ風雲の通り居吹きとちよよとめの姿しげしとどめ」とかや姫にたとえていられる箇所がある。『竹取物語』の影響は「文章Ⅰ」が暗示的で、「文章Ⅱ」が明示的だといえるんじゃないか。

先生「先生、二重障子の和歌は、百人一首も出てくる。閉止通明の「天つ風雲の通り居吹きとちよよとめの姿しげしとどめ」とかや姫にたとえていられる箇所がある。『竹取物語』の影響は「文章Ⅰ」が暗示的で、「文章Ⅱ」が明示的だといえるんじゃないか。」

先生「先生、二重障子の和歌は、百人一首も出てくる。閉止通明の「天つ風雲の通り居吹きとちよよとめの姿しげしとどめ」とかや姫にたとえていられる箇所がある。『竹取物語』の影響は「文章Ⅰ」が暗示的で、「文章Ⅱ」が明示的だといえるんじゃないか。」

先生「先生、二重障子の和歌は、百人一首も出てくる。閉止通明の「天つ風雲の通り居吹きとちよよとめの姿しげしとどめ」とかや姫にたとえていられる箇所がある。『竹取物語』の影響は「文章Ⅰ」が暗示的で、「文章Ⅱ」が明示的だといえるんじゃないか。」